



戸川家で代々受け継がれてきた歴史資料が眠っています！

江戸時代、早島は旗本の戸川家に治められていました。戸川家記念館は、その戸川家に関する資料を展示した施設です。旗本とは、将軍の直属として、江戸幕府を支えた家臣のことです。戸川家の祖、戸川達安は、元は宇喜多家の家臣でした。しかし関ヶ原の合戦では東軍として戦い手柄を立て、早島周辺2万9千200石を与えられ、庭瀬に城を築きました。その後、子の安尤が領地3千400石を分け与えられ早島を治めることになり、以後約200年もの間戸川家が早島を治めました。戸川家に代々受け継がれてきた文書や絵図、鎧などを展示しており、かつての早島の姿を知ることができます。すぐ近くの陣屋跡には、石橋や堀の一部も残されています。



たかはしがわ かいこうすい えす
高梁川嘉永洪水絵図(1850年)

◆施設のおすすめ

おススメの資料は、伊豫札黒漆包革二枚胴具足です。これは戸川家に伝わる鎧で、江戸時代の初めに作られました。実際に使うことを意識した頑丈な作りになっています。特に注目してもらいたいのは兜です。兜の飾りをよく見てみると、かわいらしいウサギの形をしています。戦いに使う鎧にウサギは不釣り合いのように見えますが、ウサギは古くからとてもおめでたい、縁起の良い動物とされてきました。これにあやかって、戦いに勝って手柄を立てようという思いを込めたのではないのでしょうか

◆子どもたちへのメッセージ

自分の住んでいる地域の歴史を知ることとはとても大切なことですが、学校の授業だけでは学べない事もあります。そんな時は、戸川家記念館のような、地域の歴史を紹介する施設に行ってみてください。きっと自分の住む地域を今よりもっと好きになれるはずです。ぜひ流域パスポートを持って戸川家記念館に来てください。



みちやすみょうじんおおのぼり
達安明神大幟



うまぐら
馬鞍にもウサギの形があります



いよざねくろうるしつつかわにまいどうぐそく
伊豫札黒漆包革二枚胴具足